
鷹の目の王子

cokoly

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鷹の目の王子

【Nコード】

N1333D

【作者名】

cokoly

【あらすじ】

一匹の鷹が部屋の中に飛び込んで来た時から、王子は自由について考え始めた。

王子は退屈していた。

お城の窓からぼんやりと遠くを眺めることが多くなった。

剣術の練習にも家来を引き連れての狩りにも詩を考えることにも、もう集中できなかった、

なぜ毎日こんなにつまらないのだろう。

家来たちはおべっかばかり使って来て本音で話せるような人間はほとんど居ないし、宮廷の厳格なしきたりや儀礼作法の数々もうんざりだった。

それもこれもあいつに会ってからだ。

ひと月程前のことだっただろうか。

一匹の鷹が王子の部屋の窓に降り立ち、王子を驚かせた。

王子は当然そんな野性の存在には慣れていなかったので、恐れ、剣を抜いて追い払おうとした。

しかし鷹は自分に向けられた刃に動じる気配など微塵も見せなかった。

王子は鷹と目が合った。

それは宮廷に出入りするどんな人間の目よりも鋭く、威厳に満ちていた。

王子は剣を降ろした。

鷹は啼き、踵を返して空へと舞い戻った。

王子は窓のそばへ急ぎ、鷹の背中を目で追った。

鷹は翼を広げて風を受け、悠然と旋回しながら上昇していく。なんと素晴らしいのだろう。

王子はまるで初めて空を見たような気持ちになった。

それはどうみても新しい世界だった。

鷹はどんな束縛も受けず、自由に見えた。

王子にとって、自由という言葉が身に沁みて感じられたのは、この時が初めてだった。

王子は、鷹になりたいと思った。

それ以来、城の中でどんな催しが行われようと、王子は楽しめなくなった。

舞踏会の賑わいは煩わしい喧噪に変わり、家来たちに何を言われなくても浅ましい追従にしか聞こえなくなった。

狩りに出かけても、獲物よりも空の広さが気になってくる。

あの鷹は飛んでいないか。

「私は鷹になりたい」

ある日王子はそば付きの小姓に言った。

その小姓は王子の子供の頃から王子の世話をしていた、城の中で心を許せる数少ない者の一人だった。小姓は答えた。

「王子様は鷹のような猛々しい武将になれますとも」

「違う。私は鷹になりたいのだ。大空を駆け巡り、自由に世界を飛んでみたいのだ」

小姓は少し考えた。

「私も空を飛んでみたいと夢見たことがあります」

王子は窓の外に向けていた視線を小姓の方へ移した。

「私は空を飛びたいのではない。鷹になりたいのだ」

「王子様。あなたは他の誰でもなくあなたなのです。それは鷹も同じことではありませんか」

「お前のいうことは分かる。しかし、それを聞いても満足もできないし納得もできない。それは私の求める言葉ではないのだ」

「王子様は言葉をお求めなのですか」

「……いや。それも違うな」

王子は語るのをやめた。いくら言葉を費やしても、これ以上何も伝わるまい。それに、話せば話す程、自分の想いから外れたことを

言ってしまいそうな気がしたのだ。

「なぜ、私の前に現れたのだ？」

王子は鷹の目を思い出していた。

「何かおっしゃいましたか？」

「いや、いいんだ。下がってくれ。一人になりたい」

小姓は恭しく頭を下げ、王子の部屋から出て行った。

鷹の目が、どこかで王子を見ている気がした。

日を追う毎にそのイメージは強くなり、どんなことをしていても、王子は鷹の目を頭に描くようになった。

その内に、自分が鷹を見ているのか、鷹に見られているのかも分からなくなってきた。

（父が死に、私が王になったら……）

王子は考えた。

私は鷹になろう。すべてを私の自由にしてやるのだ。

その日を境に、王子は王宮の中で理不尽な権勢を振りかざし始めた。

鷹は優雅に空を飛んでいた。

城の上を何度か旋回し、景色を眺め、その日の獲物を求めて山の方へと飛び去った。

```
>a href="http://novel.blogmura.com/novel|short/">img src="http://novel.blogmura.com/novel|short/img/novel|short8831.gif" width="88" height="31" border="0" alt="にほんブログ村 小説ブログ 短編小説へ" /</a<
```

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1333d/>

鷹の目の王子

2010年10月15日18時00分発行